



Red Hat Enterprise Linux 8

Red Hat OpenStack Platform での Red Hat High Availability クラスターの設定

RHOSP インスタンスでの HA クラスターおよびクラスターリソースのインストールと設定

Red Hat Enterprise Linux 8 Red Hat OpenStack Platform での Red Hat High Availability クラスターの設定

RHOSP インスタンスでの HA クラスターおよびクラスターリソースのインストールと設定

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Red Hat High Availability Add-On を使用して、Red Hat OpenStack Platform (RHOSP) インスタンスで高可用性 (HA) クラスターを設定できます。このガイドでは、必要なパッケージおよびエージェントをインストールする手順と、基本的なクラスター、フェンスリソース、および HA クラスターリソースを設定する例について説明します。

目次

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	3
第1章 はじめに	4
第2章 HA インスタンスの RHOSP サーバグループ設定	5
第3章 高可用性および RHOSP パッケージとエージェントのインストール	6
第4章 RHOSP の認証方法のセットアップ	8
4.1. CLOUDS.YAML ファイルを使用した RHOSP での認証	8
4.2. OPENRC 環境スクリプトを使用した RHOSP での認証	8
4.3. USERNAME とパスワードを使用した RHOSP での認証	9
第5章 RED HAT OPENSTACK PLATFORM での基本クラスターの作成	10
第6章 RED HAT OPENSTACK PLATFORM における HA クラスターのフェンシングの設定	12
第7章 RED HAT OPENSTACK PLATFORM での HA クラスターリソースの設定	14
7.1. RED HAT OPENSTACK PLATFORM 上の HA クラスターでの OPENSTACK-INFO リソースの設定 (必須)	14
7.2. RED HAT OPENSTACK PLATFORM 上の HA クラスターにおける仮想 IP アドレスの設定	15
7.3. RED HAT OPENSTACK PLATFORM 上の HA クラスターにおけるフローティング IP アドレスの設定	17
7.4. RED HAT OPENSTACK PLATFORM 上の HA クラスターにおけるブロックストレージリソースの設定	18

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。また、改善点があればお知らせください。

Jira からのフィードバック送信 (アカウントが必要)

1. [Jira](#) の Web サイトにログインします。
2. 上部のナビゲーションバーで **Create** をクリックします。
3. **Summary** フィールドにわかりやすいタイトルを入力します。
4. **Description** フィールドに、ドキュメントの改善に関するご意見を記入してください。ドキュメントの該当部分へのリンクも追加してください。
5. ダイアログの下部にある **Create** をクリックします。

第1章 はじめに

Red Hat High Availability Add-On を使用して、Red Hat OpenStack Platform (RHOSP) インスタンスで Red Hat High Availability (HA) クラスターを設定できます。これには、必要なパッケージおよびエージェントのインストール、基本的なクラスターの設定、フェンシングリソースの設定、および HA クラスターリソースの設定が必要になります。

RHOSP ドキュメントについては、[Red Hat OpenStack Platform の製品ドキュメント](#) を参照してください。

RHEL High Availability クラスターでの RHOSP インスタンスを使用する場合に適用される Red Hat のポリシー、要件、および制限については、[Support Policies for RHEL High Availability Clusters - OpenStack Virtual Machines as Cluster Members](#) を参照してください。

第2章 HA インスタンスの RHOSP サーバーグループ設定

RHOSP HA クラスタースタンスを作成する前に、インスタンスサーバーグループを作成します。アフィニティポリシーでインスタンスをグループ化します。複数のクラスターを設定する場合は、クラスターごとに1つのサーバーグループのみがあることを確認してください。

サーバーグループに設定したアフィニティポリシーは、ハイパーバイザーに障害が発生した場合にクラスターが機能し続けるかどうかを判断できます。

デフォルトのアフィニティポリシーは **affinity** です。このアフィニティポリシーを使用すると、すべてのクラスターノードを同じ RHOSP ハイパーバイザーに作成できます。この場合、ハイパーバイザーに障害が発生すると、クラスター全体に障害が発生します。このため、**anti-affinity** または **soft-anti-affinity** のサーバーグループにアフィニティポリシーを設定します。

- **anti-affinity** のアフィニティポリシーでは、サーバーグループは、コンピュータードごとに1つのクラスターノードのみを許可します。コンピュータードよりも多くのクラスターノードを作成しようとすると、エラーが発生します。この設定は、RHOSP ハイパーバイザーの障害に対して最高レベルの保護を提供しますが、大規模なクラスターをデプロイするには、利用可能なリソースよりも多くのリソースが必要になる場合があります。
- **soft-anti-affinity** のアフィニティポリシーを使用すると、サーバーグループは、すべてのコンピュータードにできるだけ均等にクラスターノードを分散します。これは、**anti-affinity** ポリシーよりもハイパーバイザーの障害に対する保護が低くなりますが、**affinity** のアフィニティポリシーよりも高いレベルの高可用性を提供します。

デプロイメントのサーバーグループアフィニティポリシーを決定する際には、次のクラスターコンポーネントを考慮して、クラスターのニーズと使用可能なリソースのバランスを取る必要があります。

- クラスタ内のノード数
- 利用可能な RHOSP コンピュータード数
- クラスタクォーラムがクラスターオペレーションを維持するために必要なノード数

アフィニティとインスタンスサーバーグループの作成に関する詳細は、[Compute スケジューラーのフィルター](#)と [コマンドラインインターフェイスリファレンス](#) を参照してください。

第3章 高可用性および RHOSP パッケージとエージェントのインストール

Red Hat OpenStack Platform (RHOSP) に Red Hat High Availability クラスターの設定に必要なパッケージをインストールします。クラスターメンバーとして使用する各ノードにパッケージをインストールする必要があります。

前提条件

- [HA インスタンスの RHOSP サーバークラスタ設定](#) で設定され、説明されているように、HA クラスターノードとして使用する RHOSP インスタンスのサーバークラスタがある。
- 各 HA クラスターノードの RHOSP インスタンスがある。
 - インスタンスはサーバークラスタのメンバー
 - インスタンスは、RHEL 8.7 以降を実行するノードとして設定

手順

1. RHEL HA リポジトリと RHOSP ツールチャンネルを有効にします。

```
# subscription-manager repos --enable=rhel-8-for-x86_64-highavailability-rpms
# subscription-manager repos --enable=openstack-16-tools-for-rhel-8-x86_64-rpms
```

2. Red Hat High Availability Add-On ソフトウェアパッケージを、RHOSP クラスターリソースエージェントおよび RHOSP フェンスエージェントに必要なパッケージと共にインストールします。

```
# yum install pcs pacemaker python3-openstackclient python3-novaclient fence-agents-openstack
```

3. 各ノードに **pcs** および **pacemaker** パッケージをインストールすると、**pcs** 管理アカウントであるユーザー **hacluster** が作成されます。すべてのクラスターノードの **hacluster** ユーザーのパスワードを作成します。すべてのノードで同じパスワードを使用すると、クラスター管理が簡素化されます。

```
# passwd hacluster
```

4. **firewalld.service** がインストールされている場合は、RHEL ファイアウォールに高可用性サービスを追加します。

```
# firewall-cmd --permanent --add-service=high-availability
# firewall-cmd --add-service=high-availability
```

5. **pcs** サービスを起動し、システムの起動時に開始できるようにします。

```
# systemctl start pcsd.service
# systemctl enable pcsd.service
```

6. **pcs** サービスが実行されていることを確認します。

```
# systemctl status pcsd.service
```

```
pcsd.service - PCS GUI and remote configuration interface
Loaded: loaded (/usr/lib/systemd/system/pcsd.service; enabled; vendor preset: disabled)
Active: active (running) since Thu 2018-03-01 14:53:28 UTC; 28min ago
Docs: man:pcsd(8)
      man:pcs(8)
Main PID: 5437 (pcsd)
CGroup: /system.slice/pcsd.service
        └─5437 /usr/bin/ruby /usr/lib/pcsd/pcsd > /dev/null &
Mar 01 14:53:27 ip-10-0-0-48.ec2.internal systemd[1]: Starting PCS GUI and remote
configuration interface...
Mar 01 14:53:28 ip-10-0-0-48.ec2.internal systemd[1]: Started PCS GUI and remote
configuration interface.
```

7. **/etc/hosts** ファイルを編集して、RHEL ホスト名と内部 IP アドレスを追加します。**/etc/hosts** の詳細は、Red Hat ナレッジベースのソリューション記事 [How should the /etc/hosts file be set up on RHEL cluster nodes?](#) を参照してください。

関連情報

- Red Hat High Availability クラスターの設定と管理の詳細は、[高可用性クラスターの設定および管理](#) を参照してください。

第4章 RHOSP の認証方法のセットアップ

高可用性フェンスエージェントとリソースエージェントは、RHOSP との通信に 3 つの認証方法をサポートしています。

- **clouds.yaml** 設定ファイルを使用した認証
- OpenRC 環境スクリプトによる認証
- Pacemaker による **username** とパスワードを使用した認証

クラスターに使用する認証方法が決定したら、フェンシングまたはクラスターリソースを作成するときに適切な認証パラメーターを指定します。

4.1. CLOUDS.YAML ファイルを使用した RHOSP での認証

認証に **clouds.yaml** ファイルを使用するこのドキュメントの手順は、この手順で示した **clouds.yaml** ファイルを使用します。この手順では、このファイルで定義されているように、**cloud= parameter** に **ha-example** を指定します。

手順

1. クラスターの一部となる各ノードで、以下の例のように **clouds.yaml** ファイルを作成します。**clouds.yaml** ファイルの作成に関する詳細は、[ユーザーおよびアイデンティティ管理ガイド](#) を参照してください。

```
$ cat .config/openstack/clouds.yaml
clouds:
  ha-example:
    auth:
      auth_url: https://<ip_address>:13000/
      project_name: rainbow
      username: unicorns
      password: <password>
      user_domain_name: Default
      project_domain_name: Default
  <... additional options ...>
  region_name: regionOne
  verify: False
```

2. 次の基本的な RHOSP コマンドを使用して、認証が成功し、RHOSP API にアクセスできるかどうかをテストします。**ha-example** を、作成した **clouds.yaml** ファイルで指定したクラウドの名前に置き換えます。このコマンドでサーバーの一覧が表示されない場合は、RHOSP 管理者に連絡してください。

```
$ openstack --os-cloud=ha-example server list
```

3. クラスターリソースやフェンシングリソースを作成する際にクラウドパラメーターを指定します。

4.2. OPENRC 環境スクリプトを使用した RHOSP での認証

OpenRC 環境スクリプトを使用して RHOSP で認証するには、次の手順を実行します。

手順

1. クラスターの一部となる各ノードで、OpenRC 環境スクリプトを設定します。OpenRC 環境スクリプトの作成に関する詳細は、[Set environment variables using the OpenStack RC file](#) を参照してください。
2. 次の基本的な RHOSP コマンドを使用して、認証が成功し、RHOSP API にアクセスできるかどうかをテストします。このコマンドでサーバーの一覧が表示されない場合は、RHOSP 管理者に連絡してください。

```
$ openstack server list
```

3. クラスターリソースまたはフェンシングリソースを作成する際に、**openrc** パラメーターを指定します。

4.3. USERNAME とパスワードを使用した RHOSP での認証

username とパスワードを使用して RHOSP で認証するには、リソースを作成するときにクラスターリソースまたはフェンシングリソースの **username**、**password**、および **auth_url** パラメーターを指定します。RHOSP 設定によっては、追加の認証パラメーターが必要になる場合があります。使用する認証パラメーターは、RHOSP 管理者によって提供されます。

第5章 RED HAT OPENSTACK PLATFORM での基本クラスターの作成

この手順では、フェンシングやリソースが設定されていない RHOSP プラットフォーム上に高可用性クラスターを作成します。

前提条件

- RHOSP インスタンスが各 HA クラスターノードに設定されている。
- HA クラスターノードが RHEL 8.7 以降を実行している
- [高可用性および RHOSP パッケージとエージェントのインストール](#) の説明のように、各ノードにインストールされた高可用性および RHOSP パッケージがある。

手順

1. クラスターノードのいずれかで以下のコマンドを実行し、**pcs** ユーザー **hacluster** を認証します。クラスターの各ノードの名前を指定します。この例では、クラスターのノードは **node01**、**node02** および **node03** です。

```
[root@node01 ~]# pcs host auth node01 node02 node03
Username: hacluster
Password:
node01: Authorized
node02: Authorized
node03: Authorized
```

2. クラスターを作成します。この例では、クラスターの名前は **newcluster** です。

```
[root@node01 ~]# pcs cluster setup newcluster node01 node02 node03
...
Synchronizing pcsd certificates on nodes node01, node02, node03...
node02: Success
node03: Success
node01: Success
Restarting pcsd on the nodes in order to reload the certificates...
node02: Success
node03: Success
node01: Success
```

検証

1. クラスターを有効にします。

```
[root@node01 ~]# pcs cluster enable --all
node01: Cluster Enabled
node02: Cluster Enabled
node03: Cluster Enabled
```

2. クラスターを起動します。コマンドの出力は、クラスターが各ノードで起動したかどうかを示します。

```
[root@node01 ~]# pcs cluster start --all
node02: Starting Cluster...
node03: Starting Cluster...
node01: Starting Cluster...
```

第6章 RED HAT OPENSTACK PLATFORM における HA クラスターのフェンシングの設定

フェンシング設定により、HA クラスターで誤動作しているノードが自動的に分離されます。これにより、ノードがクラスターのリソースを消費したり、クラスターの機能が損なわれたりすることを防ぎます。

fence_openstack フェンスエージェントを使用して、RHOSP 上の HA クラスターのフェンスデバイスを設定します。RHOSP フェンスエージェントのオプションを表示するには、次のコマンドを使用します。

```
# pcs stonith describe fence_openstack
```

前提条件

- RHOSP で実行されている設定済みの HA クラスターがある。
- [RHOSP の認証方法のセットアップ](#) で説明されているように、クラスター設定に使用する RHOSP 認証方法を使用して、RHOSP API へアクセスできる。
- クラスタープロパティ **stonith-enabled** は、デフォルト値の **true** に設定されている。実稼働環境でフェンシングを無効にすることは適していないため、フェンシングが無効になっている場合は、Red Hat ではクラスターがサポートされないことに注意してください。以下のコマンドを実行して、フェンシングが開始されていることを確認します。

```
# pcs property config --all
Cluster Properties:
...
stonith-enabled: true
```

手順

クラスター内の任意のノードから次の手順を実行します。

1. クラスター内の各ノードの UUID を決定します。
次のコマンドは、**ha-example** プロジェクト内のすべての RHOSP インスタンス名の完全なリストと、ヘディング **ID** のもと、その RHOSP インスタンスに関連付けられたクラスターノードの UUID を表示します。ノードのホスト名は RHOSP インスタンス名と一致しない場合があります。

```
# openstack --os-cloud="ha-example" server list
...
| ID                               | Name                |...
| 6d86fa7d-b31f-4f8a-895e-b3558df9decb|testnode-node03-vm|...
| 43ed5fe8-6cc7-4af0-8acd-a4fea293bc62|testnode-node02-vm|...
| 4df08e9d-2fa6-4c04-9e66-36a6f002250e|testnode-node01-vm|...
```

2. **pcmk_host_map** parameter を使用してクラスター内の各ノードをそのノードの UUID にマップし、フェンシングデバイスを作成します。以下のフェンスデバイス作成コマンドの例では、それぞれ異なる認証方法を使用しています。
 - a. 次のコマンドは、認証用の **clouds.yaml** 設定ファイルを使用して、3 ノードクラスター用の **fence_openstack** フェンシングデバイスを作成します。**cloud= parameter** には、clouds.yaml ファイルのクラウド名を指定します。


```
# pcs stonith create fenceopenstack fence_openstack
pcmk_host_map="node01:4df08e9d-2fa6-4c04-9e66-
36a6f002250e;node02:43ed5fe8-6cc7-4af0-8acd-a4fea293bc62;node03:6d86fa7d-
b31f-4f8a-895e-b3558df9decb" power_timeout="240" pcmk_reboot_timeout="480"
pcmk_reboot_retries="4" cloud="ha-example"
```

- b. 次のコマンドは、認証用の OpenRC 環境スクリプトを使用して、**fence_openstack** フェンシングデバイスを作成します。

```
# pcs stonith create fenceopenstack fence_openstack
pcmk_host_map="node01:4df08e9d-2fa6-4c04-9e66-
36a6f002250e;node02:43ed5fe8-6cc7-4af0-8acd-a4fea293bc62;node03:6d86fa7d-
b31f-4f8a-895e-b3558df9decb" power_timeout="240" pcmk_reboot_timeout="480"
pcmk_reboot_retries="4" openrc="/root/openrc"
```

- c. 次のコマンドは、認証にユーザー名とパスワードを使用して、**fence_openstack** フェンシングデバイスを作成します。**username**、**password**、**project_name**、および **auth_url** などの認証パラメーターは、RHOSP 管理者によって提供されます。

```
# pcs stonith create fenceopenstack fence_openstack
pcmk_host_map="node01:4df08e9d-2fa6-4c04-9e66-
36a6f002250e;node02:43ed5fe8-6cc7-4af0-8acd-a4fea293bc62;node03:6d86fa7d-
b31f-4f8a-895e-b3558df9decb" power_timeout="240" pcmk_reboot_timeout="480"
pcmk_reboot_retries="4" username="XXX" password="XXX"
project_name="rhelha" auth_url="XXX" user_domain_name="Default"
```

検証

1. クラスター内のいずれかのノードから、クラスター内の別のノードをフェンスし、クラスターのステータスを確認します。フェンスされたノードがオフラインの場合、フェンシング操作は成功しました。

```
[root@node01 ~] # pcs stonith fence node02
[root@node01 ~] # pcs status
```

2. フェンシングしたノードを再起動し、ステータスをチェックして、ノードが起動したことを確認します。

```
[root@node01 ~] # pcs cluster start node02
[root@node01 ~] # pcs status
```

第7章 RED HAT OPENSTACK PLATFORM での HA クラスターリソースの設定

次の表には、RHOSP 上の HA クラスターのリソースを設定するために使用する RHOSP 固有のリソースエージェントを記載しています。

openstack-info (必須)	RHOSP 固有のリソースエージェントのサポートを提供します。 fence_openstack フェンスエージェント以外の RHOSP 固有のリソースエージェントを実行するには、 openstack-info リソースをクラスターのクローンリソースとして設定する必要があります。openstack-info リソースの設定に関する詳細は、Red Hat OpenStack Platform 上の HA クラスターで openstack-info リソースを設定する を参照してください。
openstack-virtual-ip	仮想 IP アドレスリソースを設定します。 openstack-virtual-ip リソースの設定に関する詳細は、 Red Hat OpenStack Platform 上の HA クラスターにおける仮想 IP アドレスの設定 を参照してください。
openstack-floating-ip	Floating IP アドレスリソースを設定します。 openstack-floating-ip リソースの設定に関する詳細は、 Red Hat OpenStack Platform 上の HA クラスターにおけるフローティング IP アドレスの設定 を参照してください。
openstack-cinder-volume	ブロックストレージリソースを設定します。 openstack-cinder-volume リソースの設定に関する詳細は、 Red Hat OpenStack Platform 上の HA クラスターにおけるブロックストレージリソースの設定 を参照してください。

他のクラスターリソースを設定する場合は、標準の Pacemaker リソースエージェントを使用します。

7.1. RED HAT OPENSTACK PLATFORM 上の HA クラスターでの OPENSTACK-INFO リソースの設定 (必須)

fence_openstack フェンスエージェント以外の RHOSP 固有のリソースエージェントを実行するには、**openstack-info** リソースを設定する必要があります。

openstack-info リソースを作成するこの手順は、RHOSP 認証に **clouds.yaml** ファイルを使用します。

前提条件

- RHOSP で実行されている設定済みの HA クラスターがある。
- [RHOSP の認証方法のセットアップ](#) で説明されているように、クラスター設定に使用する RHOSP 認証方法を使用して、RHOSP API へアクセスできる。

手順

クラスター内の任意のノードから次の手順を実行します。

1. **openstack-info** リソースエージェントのオプションを表示するには、次のコマンドを実行します。

pcs resource describe openstack-info

2. **openstack-info** リソースをクローンリソースとして作成します。この例では、このリソースにも **openstack-info** という名前が付けられています。この例では、**clouds.yaml** 設定ファイルを使用しており、**cloud=** パラメーターは **clouds.yaml** ファイル内のクラウドの名前に設定されています。

pcs resource create openstack-info openstack-info cloud="ha-example" clone

3. クラスターのステータスをチェックして、リソースが実行中であることを確認します。

pcs status

Full List of Resources:

- * Clone Set: openstack-info-clone [openstack-info]:
- * Started: [node01 node02 node03]

7.2. RED HAT OPENSTACK PLATFORM 上の HA クラスターにおける仮想 IP アドレスの設定

RHOSP プラットフォーム上の HA クラスターの RHOSP 仮想 IP アドレスリソースを作成するこの手順は、RHOSP 認証に **clouds.yaml** ファイルを使用します。

RHOSP 仮想 IP リソースは、**IPAddr2** クラスターリソースと連動して動作します。RHOSP 仮想 IP アドレスリソースを設定すると、リソースエージェントは、RHOSP インフラストラクチャーが仮想 IP アドレスをネットワーク上のクラスターノードに関連付けるようにします。これにより、**IPAddr2** リソースがそのノードで機能できるようになります。

前提条件

- RHOSP で実行されている設定済みの HA クラスターがある。
- 仮想 IP アドレスとして使用するために割り当てられた IP アドレスがある。
- [RHOSP の認証方法のセットアップ](#) で説明されているように、クラスター設定に使用する RHOSP 認証方法を使用して、RHOSP API へアクセスできる。

手順

クラスター内の任意のノードから次の手順を実行します。

1. **openstack-virtual-ip** リソースエージェントのオプションを表示するには、次のコマンドを実行します。

pcs resource describe openstack-virtual-ip

2. 次のコマンドを実行して、使用している仮想 IP アドレスのサブネット ID を確認します。この例では、仮想 IP アドレスは 172.16.0.119 です。

openstack --os-cloud=ha-example subnet list

```
+-----+ ... +-----+
| ID           | ... | Subnet     |
```

```
+-----+ ... +-----+
| 723c5a77-156d-4c3b-b53c-ee73a4f75185 | ... | 172.16.0.0/24 |
+-----+ ... +-----+
```

3. RHOSP 仮想 IP アドレスリソースを作成します。
次のコマンドは、前の手順で決定したサブネット ID を指定して、IP アドレスが 172.16.0.119 の RHOSP 仮想 IP アドレスリソースを作成します。

```
# pcs resource create ClusterIP-osp ocf:heartbeat:openstack-virtual-ip cloud=ha-
example ip=172.16.0.119 subnet_id=723c5a77-156d-4c3b-b53c-ee73a4f75185
```

4. 順序および場所の制約を設定します。
 - **openstack-info** リソースが、仮想 IP アドレスリソースの前に起動することを確認します。
 - 仮想 IP アドレスリソースが **openstack-info** リソースと同じノードで実行されていることを確認します。

```
# pcs constraint order start openstack-info-clone then ClusterIP-osp
Adding openstack-info-clone ClusterIP-osp (kind: Mandatory) (Options: first-action=start
then-action=start)
# pcs constraint colocation add ClusterIP-osp with openstack-info-clone
score=INFINITY
```

5. 仮想 IP アドレスの **IPAddr2** リソースを作成します。

```
# pcs resource create ClusterIP ocf:heartbeat:IPAddr2 ip=172.16.0.119
```

6. **openstack-virtual-ip** リソースが **IPAddr2** リソースの前に起動し、**IPAddr2** リソースが **openstack-virtual-ip** リソースと同じノードで実行されるように、順序と場所の制約を設定します。

```
# pcs constraint order start ClusterIP-osp then ClusterIP
Adding ClusterIP-osp ClusterIP (kind: Mandatory) (Options: first-action=start then-
action=start)
# pcs constraint colocation add ClusterIP with ClusterIP-osp
```

検証

1. リソース制約の設定を確認します。

```
# pcs constraint config
Location Constraints:
Ordering Constraints:
  start ClusterIP-osp then start ClusterIP (kind:Mandatory)
  start openstack-info-clone then start ClusterIP-osp (kind:Mandatory)
Colocation Constraints:
  ClusterIP with ClusterIP-osp (score:INFINITY)
  ClusterIP-osp with openstack-info-clone (score:INFINITY)
```

2. クラスターのステータスをチェックして、リソースが実行されていることを確認します。

```
# pcs status
```

...

Full List of Resources:

```
* fenceopenstack (stonith:fence_openstack): Started node01
* Clone Set: openstack-info-clone [openstack-info]:
  * Started: [ node01 node02 node03 ]
* ClusterIP-osp (ocf::heartbeat:openstack-virtual-ip): Started node03
* ClusterIP (ocf::heartbeat:IPAddr2): Started node03
```

7.3. RED HAT OPENSTACK PLATFORM 上の HA クラスターにおけるフローティング IP アドレスの設定

次の手順では、RHOSP で HA クラスターのフローティング IP アドレスリソースを作成します。この手順では、RHOSP 認証に **clouds.yaml** ファイルを使用します。

前提条件

- RHOSP で実行されている設定済みの HA クラスターがある。
- RHOSP 管理者によって割り当てられた、フローティング IP アドレスとして使用するパブリックネットワーク上の IP アドレスがある。
- [RHOSP の認証方法のセットアップ](#) で説明されているように、クラスター設定に使用する RHOSP 認証方法を使用して、RHOSP API へアクセスできる。

手順

クラスター内の任意のノードから次の手順を実行します。

1. **openstack-floating-ip** リソースエージェントのオプションを表示するには、次のコマンドを実行します。

```
# pcs resource describe openstack-floating-ip
```

2. フローティング IP アドレスリソースの作成に使用するパブリックネットワーク上のアドレスのサブネット ID を見つけます。
 - a. パブリックネットワークは通常、デフォルトゲートウェイのあるネットワークです。次のコマンドを実行して、デフォルトゲートウェイアドレスを表示します。

```
# route -n | grep ^0.0.0.0 | awk '{print $2}'
172.16.0.1
```

- b. 次のコマンドを実行して、パブリックネットワークのサブネット ID を見つけます。このコマンドは、ID とサブネットの見出しを含むテーブルを生成します。

```
# openstack --os-cloud=ha-example subnet list
+-----+
| ID                | | Subnet
+-----+
| 723c5a77-156d-4c3b-b53c-ee73a4f75185 | | 172.16.0.0/24 |
+-----+
+-----+
```

3. リソースのパブリック IP アドレスとそのアドレスのサブネット ID を指定して、フローティン

グ IP アドレスリソースを作成します。フローティング IP アドレスリソースを設定すると、リソースエージェントはパブリックネットワーク上に仮想 IP アドレスを設定し、それをクラスターノードに関連付けます。

```
# pcs resource create float-ip openstack-floating-ip cloud="ha-example"
ip_id="10.19.227.211" subnet_id="723c5a77-156d-4c3b-b53c-ee73a4f75185"
```

4. **openstack-info** リソースがフローティング IP アドレスリソースの前に起動するように、順序の制約を設定します。

```
# pcs constraint order start openstack-info-clone then float-ip
Adding openstack-info-clone float-ip (kind: Mandatory) (Options: first-action=start then-action=start)
```

5. フローティング IP アドレスリソースが **openstack-info** リソースと同じノードで実行されるように、場所の制約を設定します。

```
# pcs constraint colocation add float-ip with openstack-info-clone score=INFINITY
```

検証

1. リソース制約の設定を確認します。

```
# pcs constraint config
Location Constraints:
Ordering Constraints:
  start openstack-info-clone then start float-ip (kind:Mandatory)
Colocation Constraints:
  float-ip with openstack-info-clone (score:INFINITY)
```

2. クラスターのステータスをチェックして、リソースが実行されていることを確認します。

```
# pcs status
...
Full List of Resources:
* fenceopenstack (stonith:fence_openstack): Started node01
* Clone Set: openstack-info-clone [openstack-info]:
  * Started: [ node01 node02 node03 ]
* float-ip (ocf::heartbeat:openstack-floating-ip): Started node02
```

7.4. RED HAT OPENSTACK PLATFORM 上の HA クラスターにおけるブロックストレージリソースの設定

次の手順では、RHOSP で HA クラスターのブロックストレージリソースを作成します。この手順では、RHOSP 認証に **clouds.yaml** ファイルを使用します。

前提条件

- RHOSP で実行されている設定済みの HA クラスターがある。
- RHOSP 管理者によって作成されたブロックストレージボリュームがある。

- **RHOSP の認証方法のセットアップ** で説明されているように、クラスター設定に使用する RHOSP 認証方法を使用して、RHOSP API へアクセスできる。

手順

クラスター内の任意のノードから次の手順を実行します。

1. **openstack-cinder-volume** リソースエージェントのオプションを表示するには、次のコマンドを実行します。

```
# pcs resource describe openstack-cinder-volume
```

2. クラスターリソースとして設定するブロックストレージボリュームのボリューム ID を決定します。

次のコマンドを実行して、各ボリュームの UUID と名前を含む、使用可能なボリュームのテーブルを表示します。

```
# openstack --os-cloud=ha-example volume list
| ID | Name |
| 23f67c9f-b530-4d44-8ce5-ad5d056ba926 | testvolume-cinder-data-disk |
```

ボリューム名がすでにわかっている場合は、設定するボリュームを指定して、次のコマンドを実行できます。これにより、ID フィールドを含むテーブルが表示されます。

```
# openstack --os-cloud=ha-example volume show testvolume-cinder-data-disk
```

3. ボリュームの ID を指定して、ブロックストレージリソースを作成します。

```
# pcs resource create cinder-vol openstack-cinder-volume volume_id="23f67c9f-b530-4d44-8ce5-ad5d056ba926" cloud="ha-example"
```

4. **openstack-info** リソースがブロックストレージリソースの前に起動するように、順序の制約を設定します。

```
# pcs constraint order start openstack-info-clone then cinder-vol
Adding openstack-info-clone cinder-vol (kind: Mandatory) (Options: first-action=start then-action=start)
```

5. ブロックストレージリソースが **openstack-info** リソースと同じノードで実行されるように、場所の制約を設定します。

```
# pcs constraint colocation add cinder-vol with openstack-info-clone score=INFINITY
```

検証

1. リソース制約の設定を確認します。

```
# pcs constraint config
Location Constraints:
Ordering Constraints:
  start openstack-info-clone then start cinder-vol (kind:Mandatory)
Colocation Constraints:
  cinder-vol with openstack-info-clone (score:INFINITY)
```

2. クラスターのステータスをチェックして、リソースが実行中であることを確認します。

```
# pcs status
```

```
...
```

```
Full List of Resources:
```

```
* Clone Set: openstack-info-clone [openstack-info]:
```

```
  * Started: [ node01 node02 node03 ]
```

```
* cinder-vol (ocf::heartbeat:openstack-cinder-volume):    Started node03
```

```
* fenceopenstack (stonith:fence_openstack):    Started node01
```